



# はあとふる ふくしま

特集

共につながり支えあうふくしまの地域共生社会を目指して  
～福島県社会福祉協議会 令和6年度新規事業・事務局体制～

シリーズ

[未来へつなごう“ふくしま”から]

人と人、地域をつないでいく、読み聞かせの魅力

桜満開の  
中庭で過ごすひととき。  
見慣れた場所も  
少し特別な景色に。  
春の木漏れ日に似合う  
柔らかな笑顔が素敵です。

(特別養護老人ホーム陽光園・福島市)



目の不自由な方のために「はあとふるふくしま」は音訳版および点訳版を作成しています。



「はあとふるふくしま」は作成経費の一部に、共同募金配分金及び特別賛助会員の寄付金を使用しています。

# 共につながり支えあう ふくしまの地域共生社会を目指して

～福島県社会福祉協議会 令和6年度新規事業・事務局体制～

幅広い年代の福祉に対する理解を深め、  
住民同士で支え合える地域づくりの推進が求められています。  
また、人手不足が深刻化する中、福祉人材の養成・確保につながる  
取組み等を展開していく必要があります。  
本会の「第5期活動推進計画 図1」の基本理念  
『共につながり支えあう ふくしまの地域共生社会づくり』を実現するため、  
以下の基本目標を掲げ、本年度も幅広い取組みを実施してまいります。

職員同士の総合力を発揮しつつ、組織内で横断的に事業展開していくことを目指し、  
令和6年度から**事務局組織を3部6課制**に改編します(詳細はP.4・5参照)

## 【 基本目標 】

1  
共につながり  
支えあう  
地域づくり

2  
共につながり  
支えあう  
仕組みづくり

3  
地域共生社会を  
支える  
人づくり



(地域共生課)

本会では、県内の市町村社協及び  
学校と協働し、生徒・学生に対する  
実践的・体験的な福祉教育の実施を  
通して、地域生活課題への興味・関  
心を引き出す取組みを推進します。

福祉に対する幅広い見方や考え方を  
養うことができる体験等の機会を  
生徒・学生へ提供し、福祉に対する  
理解を促していくことが求められて  
います。

推進項目

1

推進項目

2

推進項目

6

推進項目

7

【ボランティア・福祉教育の推進】  
地域共生社会を支えるための  
実践的な福祉教育の実施

令和6年度  
新規事業の  
紹介



【避難者生活支援】

福島県における避難者見守り・相談支援事業在り方検討会（仮称）の開催

推進項目 2

令和4年度以降、本会では避難者の個別支援を基盤とする地域支援の一体的な取組みを強化してきました。今年度はさらに令和7年度までの第2期復興・創生期間後を見据え、社協における避難者支援の在り方を協議し、令和8年度以降の支援の方向性等を示します。

（避難者生活支援・相談センター）

「社協連携避難者支援センター」郡山の開設

推進項目 2  
推進項目 8

令和5年度の「社協連携避難者支援センターいわき」の開設に続き、今年度は避難元自治体の避難者が混在する郡山市に「社協連携避難者支援センター郡山」を開設します。

避難元（富岡町・大熊町・双葉町）と避難先（郡山市）の社協が、相談・支援・見守り・居場所づくり等を連携して実施します。

（避難者生活支援・相談センター）

「人・地域・結ぶ推進事業」の展開

推進項目 2

令和5年度に実施した県内の復興公営住宅入居者実態調査（72団地4767戸対象）の結果に基づき、居場所づくりや地域懇談会、買い物支援、SNSでのつながりづくり等、団地ごとのニーズに合った支援メニューを展開し、人と地域との交流づくりを推進していきます。

（避難者生活支援・相談センター）

【福祉・介護人材の養成・確保】

県北地域における福祉・介護人材の養成・確保に関するセミナー及び情報交換会の実施

推進項目 8

福祉・介護人材の養成・確保は依然として厳しい状況にあります。

そのため、今年度は県北地域をモデル地区とし、関係機関との連携によるセミナー及び情報交換等を行い、地域性をふまえた福祉・介護人材の養成・確保に向けた新たな取組みについて協議します。

（人材研修部）

被災地での介護人材確保における広告プロモーション等の実施

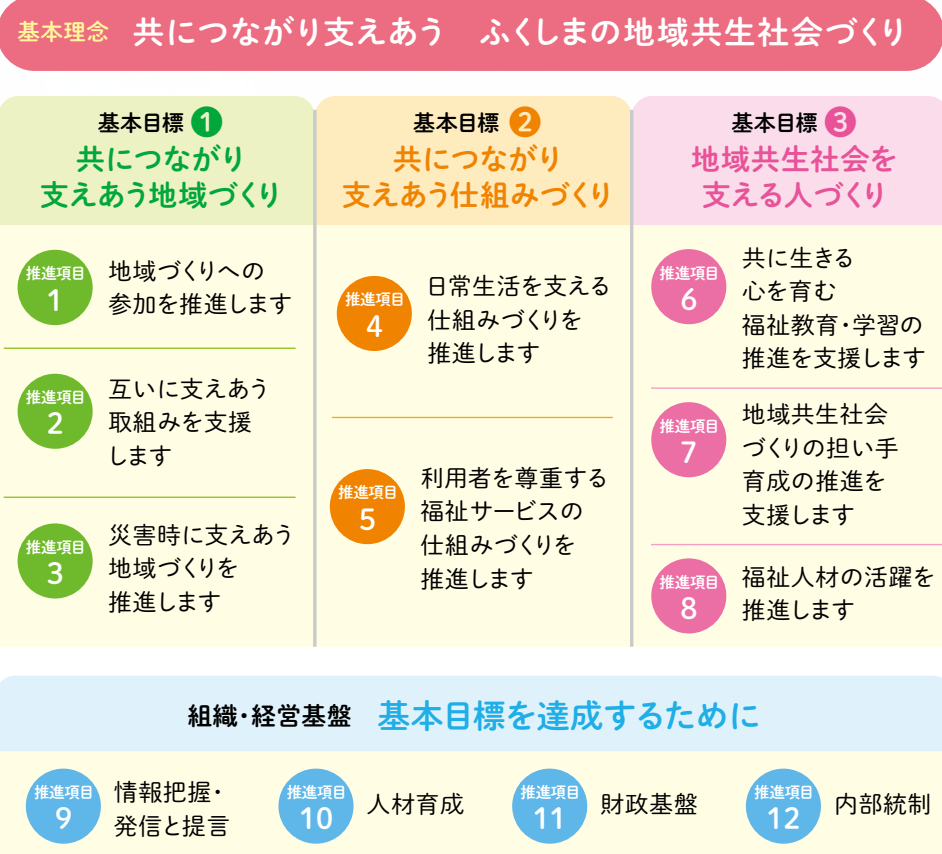
推進項目 8  
推進項目 9

被災地における介護人材の確保を図るため、県外から相双地域等へ移

（福祉人材課）

住し介護職として働くことに関する意識調査を実施します。また、関東圏を中心とした介護福祉士養成校等の学生へ相双地域等の情報を発信します。

図1 福島県社会福祉協議会 第5期活動推進計画の概要



# 令和6年度 福島県社会福祉協議会事務局体制

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111 (福島県総合社会福祉センター内)



## 自立支援課

### 生活支援室(大町分室)

- 生活福祉資金の貸付

〒960-8041 福島市大町 5-6  
(日本生命福島ビル 3F)

電話 024-523-1250

FAX 024-526-0266

### 生活自立サポートセンター

- 生活困窮者等への支援

#### 【本部・県北事務所】

電話 024-525-8801

FAX 024-524-3618

#### 【県中事務所】

〒969-0404 岩瀬郡鏡石町東町286  
(鏡石町健康福祉センター内)

電話 0248-94-7800

FAX 0248-94-7801

#### 【県南事務所】

〒963-6131 東白川郡棚倉町大字棚倉字北町95-5

電話 0247-57-7141

FAX 0247-57-7142

#### 【会津事務所】

〒965-0873 会津若松市追手町5-32  
(会津若松市社会福祉協議会内)

電話 0242-23-7445

FAX 0242-23-7724

#### 【相双事務所】

〒979-0011 南相馬市原町区小川町674-5

電話 0244-32-1753

FAX 0244-32-1783

### 地域生活定着支援センター

- 矯正施設を退所した高齢者や障がい者への生活支援

電話 024-523-0102

FAX 024-573-8201

## 総務部

### 総務企画課

#### ◆総務企画係

- 法人運営 ●総合企画・提言活動
- 社会福祉従事者の福利厚生
- 広報誌の発行 ●福島県社会福祉大会の運営

#### ◆経理係

- 一般会計の経理事務 ●共済事業

電話 024-523-1251 FAX 024-523-4477

### いきいき長寿室

- いきいき長寿県民賞の顕彰
- 福島県シルバー美術展の開催
- シニア団体活動支援事業の実施

電話 024-524-2224 FAX 024-524-2228

### (高齢者総合相談センター)

- 高齢者の心配や悩みごとに関する相談

電話 024-524-2225 FAX 024-524-2228

### (認知症コールセンター)

- 認知症に関する専門相談

電話 024-522-1122 FAX 024-524-2228

## 運営適正化委員会

- 福祉サービスに関する苦情・相談

電話 FAX 024-523-2943





社会福祉施設の協力のもと、福祉・介護の職場見学会や職場体験の支援を行っています。また、毎月県内各地域で「福祉の仕事相談会」を開催しています。(福祉人材課)

会長

副会長

事務局長

事務局次長

## 人材研修部

### 福祉人材課

#### 福祉人材センター

- 無料職業紹介事業
- 福祉人材の養成確保
- 福祉人材マッチング支援事業
- 介護助手等普及推進事業

電話 024-521-5662 FAX 024-521-5663

- 被災地における福祉・介護人材確保事業
- 電話 024-526-0045 FAX 024-521-5663

- 潜在保育士等の再就職支援
  - 保育所経営者向けセミナーの開催
- 電話 024-521-5662 FAX 024-521-5663

### 福祉研修課

- 社会福祉従事者研修の実施
- 福祉職員キャリアパス対応生涯研修の実施
- 福祉・介護人材の定着促進
- 介護支援専門員の養成
- 一般県民を対象とした介護講座の実施
- 福祉施設・事業所職員等に対する専門研修や喀痰吸引等研修の実施

〒964-0904 二本松市郭内一丁目196-1  
(県男女共生センター5階)  
電話 0243-23-8306 FAX 0243-62-4633

### 施設支援課

- 施設種別部会・協議会の運営
- 第三者評価事業
- 社会福祉法人・社会福祉施設への支援
- 介護福祉士修学資金等貸付
- 保育士修学資金等貸付

電話 024-523-1256 FAX 024-521-5663

- ひとり親職業訓練促進資金貸付
- 児童養護施設退所者自立支援資金貸付

電話 024-573-8200 FAX 024-521-5663

## 地域福祉部

### 地域共生課

#### ◆地域福祉係

- 地域福祉活動の推進
- 市町村社会福祉協議会への支援
- 重層的支援体制整備事業

電話 024-523-1252  
FAX 024-523-4477

- あんしんサポート事業  
(日常生活自立支援事業)

電話 024-523-2442  
FAX 024-523-4477

- 民生委員・児童委員活動の推進

電話 024-522-6543  
FAX 024-522-6546

#### (ボランティアセンター)

- ボランティア活動に関する相談・情報の提供
- 市町村社会福祉協議会におけるボランティア・福祉教育の推進支援

電話 024-523-1254  
FAX 024-523-4477

#### 避難者生活支援・相談センター

- 生活支援相談員・避難者地域支援コーディネーターの活動支援

電話 024-522-6543  
FAX 024-522-6546



生活支援相談員等を対象に、マップを用いて地域の実態を知り、支援の方法を考える研修会などを実施しています。(避難者生活支援・相談センター)

# 人と人、地域をつないでいく、 読み聞かせの魅力



## 取材協力

### 岩代図書館ボランティア おはなしタンポポ

二本松市立岩代図書館  
二本松市小浜字藤町242



#### 左から

- 子ども司書 門馬 幸さん もん ま みゆき
- 代表 菅野 壽子さん すげ の とし こ
- 菅野 うたさん かんの
- 渡邊 富士子さん わたなべ ふじこ

**子どもたちに図書館をもっと  
身近に感じてほしいから**

キラキラと目を輝かせてお話に聞き入る子どもたち……。二本松市の岩代図書館ボランティアおはなしタンポポ(以下、タンポポ)は1995年に設立し、今年で活動30年目を迎えます。代表の菅野壽子さんにお話を伺いました。「岩代図書館が完成したのが1993年で、子どもたちに図書館に来てもらうきっかけになればと思います、読み聞かせ活動を始めました。タンポポのメンバーは入れ替わりながら活動を続け、現在は8名が中心となっております。おはなし会を企画・運営しています」。

設立時のメンバーの一人、菅野うたさんも「子どもたちを前に、『おはなし会を始めますよ!』と言ってもなかなか集中して聞いてもらえず、活動当初は苦労もありました」と当時を振り返ります。



代表の菅野壽子さんは1996年から参加。娘さんもおはなしタンポポのメンバーで、親子二代で読み聞かせをしています。

で楽しめる工作で盛り上がって、おはなし会は終了となります。このほか、「七夕おはなし会」「納涼おはなし会」「クリスマスおはなし会」を季節ごとに開催。中でも11月に開催する「おはなし会まつり」は、岩代地区内外の読み聞かせボランティアサークルが一堂に会すビッグイベントで、来場者が1000人を超えたこともありました。



おはなし会まつりでは、再話(昔話を物語としてわかりやすく書き直したもの)した昔話をプロジェクターに映して読み聞かせを行うことも。

**楽しく無理をしないことが、  
活動を続けるコツ**

参加していた子どもが親になり、



# 赤い羽根で ささえあい

社会福祉法人 福島県共同募金会

〒960-8141 福島市渡利字七社宮 111 (福島県総合社会福祉センター内)  
電話 024-522-0822 FAX 024-528-1234  
メールアドレス akaihane@axe.locn.ne.jp  
ホームページ <https://akaihane-fukushima.or.jp/>

～ 御礼 ～

## 令和5年度共同募金運動へのご協力、ありがとうございました

令和5年10月1日から6か月間にわたり展開された共同募金運動は、令和6年3月31日をもって寄付受付を終了しました。

今年度も、県内外の寄付者の皆さま、企業の皆さま、自治会・町内会の皆さま、民生児童委員の皆さま、学校関係者の皆さま、関係機関・団体の皆さまの深いご理解とご協力により、非常に多くのご寄付を賜りました。ご協力いただいた皆さまに、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

### 令和5年度共同募金運動寄付総額

# 3億8,509万610円

【内訳】

赤い羽根共同募金	2億6,285万693円
地域歳末たすけあい募金	1億1,653万151円
NHK歳末たすけあい募金	570万9,766円

- 寄せられたご寄付は、福島県内の社会福祉施設、社会福祉協議会、NPO等が行う福祉活動に役立てられます。
- ご寄付の使いみちは、令和6年3月4日に本会配分委員会で審査され、本会理事会・評議員会の決議を経て、決定されました。
- 配分決定先など詳細な使いみちについては、6月上旬以降、本会ホームページで公開予定です。



福島県  
共同募金会  
ホームページ



自分の子どもと一緒におはなし会に参加するというケースも生まれました。親と子ども、そして孫という多世代が参加するタンポポのおはなし会。メンバーの一人、渡邊富士子さんは「子どもたちにつきり定

参加者には  
カードとシールを配布。  
5個貯まると図書館から  
プレゼントが買えます。



着したおはなし会ですが、東日本大震災やコロナ禍のときは活動自粛や制限をしなければならず、残念な思いをしたときもありました。それでも私たちの活動をずっと続けることができたのは、子どもたちの笑顔を見ることができたから」と話します。また、二本松市では、読書の楽しみや大切さを友だちや家庭に広く伝えていくことを目的に「子ども司書」を養成しています。門馬幸さんは地元の中学3年生（令和6年3月取材当時）で、小学5年生の時に「子ども司書講座」を受講

して以来、タンポポのサポーターとして企画・運営にも携わっています。年齢の近いメンバーがいることで、子どもたちにとって図書館がさらに身近なものになるという効果も期待できるのだとか。菅野壽子さんは、「ここまで続けられたのは岩代図書館や会員同士、そして家族の協力があってこそ。その上で、会員が楽しく無理せず、一人ひとりができることを取り組んだ結果だと思っています」と話します。タンポポの綿毛のように地域で生まれた絆は世代を越えて広がりを見せています。



おはなし会の様子。この日の読み聞かせは大型絵本の『くものすおやぶんとりものちょう』です。



県社協からのお知らせ

# 第27回福島県介護支援専門員実務研修受講試験のご案内

## 1. 試験日時

令和6年10月13日(日) 午前10時開始

## 2. 試験会場

福島市(予定)

## 3. 受験手数料

9,900円

## 4. 受験資格

保健・医療・福祉分野の該当業務で通算5年以上かつ900日以上の実務経験を有する方  
※詳細は「受験案内」で確認してください。

## 5. 申込期間

令和6年5月22日(水)～6月21日(金)

※当日消印有効

## 6. 受験案内の配付について

(1) 配付期間 令和6年5月20日(月)～6月14日(金)

(2) 配付方法 受験案内を希望する方は、『返信用封筒』に宛先を明記し希望冊数に応じた切手を貼付したうえで、下記送付先までお送りください。

※1 窓口での配付は一切いたしません。

※2 返信用封筒表面左下に「ケアマネ試験受験案内〇冊希望」と必ず希望冊数を明記してください。

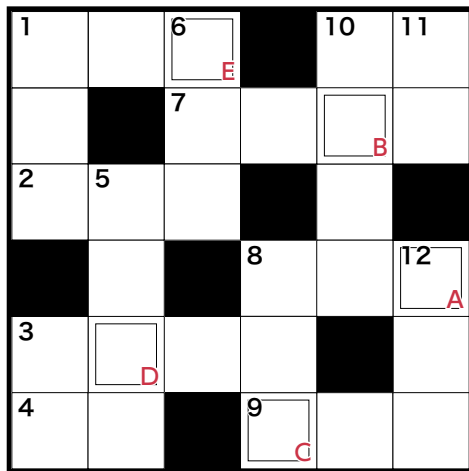
※3 速達での送付を希望する場合は、返信用封筒表面に朱書きで「速達」と明記してください。

希望冊数	返信用封筒のサイズ	返信用封筒に貼付する切手の金額	
		通常料金	速達料金
1冊	A4サイズ(角型2号)	250円	260円加算
2冊～3冊	A4サイズ(角型2号)	390円	350円加算
4冊～6冊	A4サイズ(角型2号)	580円	350円加算
7冊以上	ゆうパック等の着払い伝票に必要事項を記入して送付してください(返信用封筒は不要)。なお、必ず希望冊数を明記してください。		

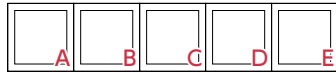
お問い合わせ先・  
返信用封筒の送付先

福島県社会福祉協議会 福祉研修課 〒960-8141 福島市渡利字七社宮111  
電話 024-523-1259 URL <https://www.fukushimakenshakyo.or.jp>

## クロスワードにチャレンジ!



全部できたら二重ワクの文字をABC順に読んでいくと、それが答えです。



### ヨコのカギ

- ブリーフ、死神、お茶の水、阿笠、オーキド
- シンガー
- とろ火<弱火<中火<強火
- 〇は友を呼ぶ
- よく聞こうとして立てます
- サマンサ、メグ、フリーレン、春風どれみ、キキ
- 固体→液体→〇〇
- 夏が来れば思い出す 遙かな

### タテのカギ

- 麻しんウイルスによっておこる感染症
- ⇄夜
- 国語・算数・理科・〇〇
- 精製するとガス・灯油・ガソリンなどになります
- 保険期間が終了するタイミング
- 大吉?大凶? 神社で引きます
- 大学で行う演習
- いくさで身を守るために着た武具

### 応募方法

ハガキまたはEメールにパズルの答えと ①住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、業種 ②本誌に対するご意見、ご感想、ご要望を全てご記入の上、ご応募ください。

### 締切

令和6年6月14日(金)

### 宛先

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111  
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会「はあとふる・ふくしまパズル係」

メールでの応募はこちら!



正解者の中から  
抽選で3名に  
プレゼントが当たる!



### 今月のプレゼント

ワークコスモス  
(郡山市)

### 4種のどうぶつクッキーと ラスクの詰め合わせセット

当選者の発表は商品の発送を  
もって代えさせていただきます。

多数のご応募ありがとうございました

3月号の  
正解

「ケンナイハツ」  
(県内初)

※ご記入の個人情報適切に管理し、目的以外に  
使用しません。

※本誌に対するご意見、ご感想、ご要望の一部  
は、「読者のおたより」に掲載させていただく  
場合もございます。



## 2月号に寄せられた 読者のおたよりから

能登半島地震の被災者にお見舞い申し上げます。素早い支援の重要性を2月号の記事で改めて感じました。  
(59才 看護師)

わが家も昨年9月の大雨で床上浸水しました。ボランティアの方には大変お世話になり、ありがとうございました。  
(67才 パート事務)

2月号の特集は、テレビ・新聞では分らなかったことが記事になっていて分かりやすかったです。  
(65才 主婦)

## 編集後記



ほんま ともえ  
総務企画課 本間 智絵

新入職員の方をはじめ、様々な新たなスタートをされたことと思います。県社協も新たな体制で動き始めました。特にこの季節は慌ただしく過ぎていくものですが、ふっと一息ついたときにこの『はあとふる・ふくしま』を手にとっていただけたら嬉しいです。今年度もよろしくお祈りします!